

## 「京都大学ポスターセッション 2024」に参加

令和7年3月15日(土)、京都大学百周年時計台記念館で「京都大学ポスターセッション 2024」が開催されました（主催：京都大学高大接続・入試センター）。この事業は、京都大学との高大接続ネットワーク構想加盟校および高大連携協定を締結する教育委員会等から推薦された高校に在籍する高校生が、課題研究等の日頃の取組の成果をポスター発表するものです。本校は、2018（H30）年度から毎年参加し、今回で7回目の参加となりました（2020年度はオンデマンドで実施）。今年は、全国の国公私立31校から300人以上の高校生が、文系理系あわせて31テーマでポスター発表を行いました。

本校からは、人文社会科学科の課題研究 国語2班が、「SNSにおける『笑』のもたらす効果について」をテーマに発表しました。生徒らは、音声学や言語学的なアプローチから、「笑」の使用の有無による会話の受け手の印象について調査し、結果を分析した内容を発表しました。文章に「笑」を用いることは、基本的に会話の受け手に温和で親しみやすい印象を与える一方で、相手に皮肉的な印象を与える場合もあることから、自分がメッセージを送る際、相手がどのような印象を受けるかに留意しなければならないことなどを発表しました。

全国各地から参加している高校生や先生方、京都大学の先生方に対して堂々と研究成果を発表し、また、参加者からの質疑に応答することで、他の参加校とも学术交流を深めました。

### <生徒の感想>

- ・他校の生徒は、ポスターセッションの場で初めて研究内容を知る他者に対して、分かりやすい説明をしていることが印象的だった。
- ・他校の研究内容の面白さや、発表の場慣れしている様子などに圧倒され、自分自身の発表までの向き合い方について振り返る機会になった。
- ・全国には自分たちの思いつかないような研究をする人がいるのだと知り、また研究のレベルの高さも実感した。
- ・普段の勉強やスマートフォンで調べて情報を得るだけに留まらず、自分の頭の中で思考したり、得た知識を他の知識や自分の身の周りのものに結びつけて考えたりすることが重要だと思った。

